

しかも、この地は大山参詣 大山寺の門前への山麓丘陵地の街道筋にあり、かつ、この集落には一人の死者を埋葬する「埋葬墓」と「お参りする墓」の二つの墓を作る「両墓制」が今も残り、集落の川向うには埋葬墓の墓所があり、緑に包まれた里山をバックに遺体を埋葬してその上に石を置くだけの素朴な埋葬墓が幾つも並び、時と共に野墓となって自然に帰ってゆく。 縄文のストーンサークルにも通ずるなんとなく穏やかでゆったりとした時が流れる空間が映し出されて、映像に惹きつけられました。

また、「たたら」の名前がつく「飯戸・たたらと」集落是非一度行ってみたいなあと。



かつての資料を引っ張り出したり、インターネット検索してみたりで、大山山麓に見つけた「飯戸・たたらと」集落の概要を調べました。 行ったわけではないので、詳細は不明ですが、本当に穏やかな空間に「伯耆国のたらの里」のイメージを重ねてみましたので、ご紹介します。

また、インターネット検索で調べていて、孝霊天皇伝説の地 大山北山麓の傾斜地にも 時代はずっと後ですが、具体的にたたら遺跡がいくつかあることがわかりましたので、併せて記録させていただきました。





369日目～「鳥取」(10月7日～10月10日)

372日目 鳥取県大山町

NHK BS 10月10日放送

放送日：10月10日

谷口邦子さんのこころの風景

大山町鉾戸（たたらど）の野墓

谷口邦子さんの「こころの風景」は故郷の大山町鉾戸にある野墓の風景です。野墓とは、一人の死者に対して「埋葬する墓」と「お参りする墓」の二つのお墓を作る「両墓制」で、遺体を埋葬する方のお墓。穴を掘るときに出た石をそのままお棺の上に置いただけの素朴な墓で、いつか自然に戻ってゆく、その風景が谷口さんはたまに好きだといいます。久しぶりの雨の中、倉吉駅から御来屋駅まで輪行した正平さんは上り坂をものともせず鉾戸をめざします。ようやくたどり着き、川のそばにひっそりたたずむ野墓を発見。そして奇跡のような再会が…。

http://www.nhk.or.jp/kokorotabi/route_2014autumn/20141010/index.html より

こころの旅



大山町鉾戸（たたらど）の野墓



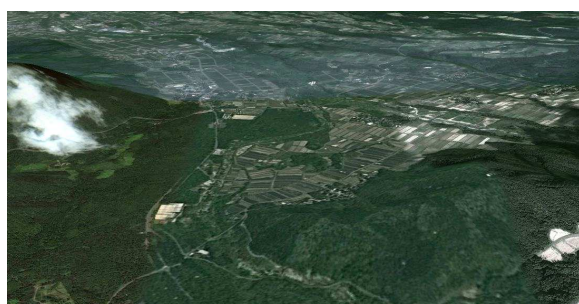
北の海岸部より 大山の山々鳥瞰



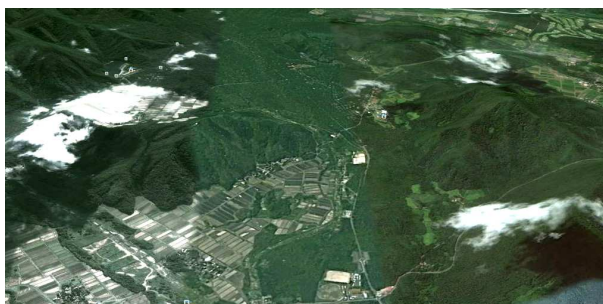
県道 36 号線 大山寺への道



孝霊山麓 インターネットより



南 大山側から見た鉾戸の集落



北 海岸側から眺めた鉾戸の集落

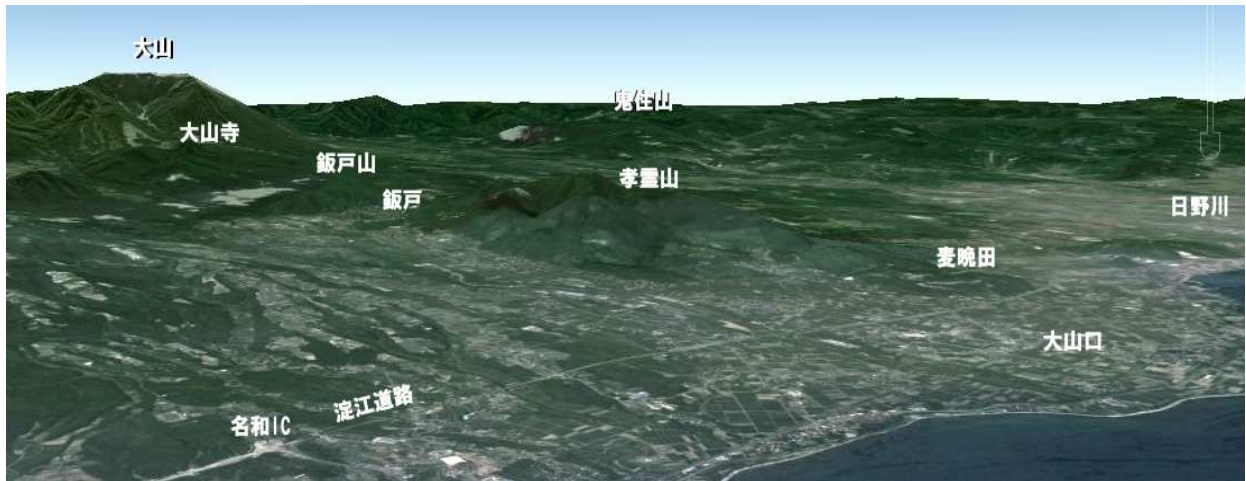
Google Earth で鳥瞰した大山町鉾戸集落

孝霊山の山裾に沿って鉾戸川が流れているのが見える



インターネット検索で見つけた大山町鉾戸集落 両墓制の野墓 インターネットより

1. 大山町飯戸の「飯(たたら)」の読み & 「たたらと」をインターネット検索



「飯」の漢字を「たたら」と読む

「飯」をすらっと読むと「はん・ぱん」・「いたがね」金属を薄く平らな形状に形成したもののこと。板金。

板金を販売するばんきんや鋼板メーカーなどでは「飯金屋」「〇〇鋼飯」などを使うこともあるが、「たたら」と読むのは聞いたことがない。

一方 たたら製鉄関連から「たたら」と読む漢字を拾い出してみると

「鈰」「鑪」「踏鞴」「蹈鞴」「多々良」「多田羅」「多々良」「多々羅」などがあるが

「飯」にはたどり着かなかった。

また、「飯戸」をインターネットで検索すると大山町飯戸以外ヒットしなかった。

「たたらど」で検索するとこの大山町飯戸のほか「踏鞴戸」「踏鞴戸村」などがヒットする。

踏鞴戸村は現在の栃木県矢板市の北部の伊佐野の東部で砂鉄を使った製鉄で栄えた村で、その歴史は古く、和名抄にその初見があるといい、

続日本紀の天平宝字5年（761年）の条には「百済人憶頼子老ら

四十一人に石野連の姓を賜う」とあり、この地にも製鉄の渡来工人がいたことがうかがえる。

朝鮮半島からやってきた工人たちによるたたら製鉄を営む村が「たたらと」か・・・

この大山北麓の丘陵地から海岸にかけては、いち早く大陸との交流が行われた地であり、かつ たたら伝承の色濃く残る地でもある。

飯戸集落の直ぐ傍にそびえる孝霊山はたたら伝承といわれる孝霊天皇の「鬼退治」伝承が伝わる山。

そして、孝霊山はかつて、韓山・高麗山と呼ばれ、その北麓の突き出た丘には鉄を大量集積する弥生後期の大集落妻木晩田遺跡がある。ひして、そのすぐ北の淀江の入り江は古代大陸交流で栄えた港である。

江東川、谷川、妻木川といった川の流れる大山町の西端部などが高麗村と呼ばれ、古代この大山北麓一帯に広がる淀江平野には数多くの渡来人が住んでいたとも聞く。たたら製鉄の工人たちもその中に居たに違いないだろう。

平安時代の伯耆国鉄生産は9世紀に調として鉄鋌・鋤を出し、庸として鋤を中央に差し出した記録が

延喜式にある。 また 1073 年から 20 年間に東大寺封物として 4340 鋌 もの鉄を全国の中で伯耆国のみが

差し出していることが平安遺文にあり、平安時代伯耆国は日本でも有数の大製鉄地であったことが窺われる。

これを裏付けるかのように、最近の国道9号線のバイパス建設工事に伴う発掘などで、大山北東部の東伯耆で22か所もの農具など生産する鍛冶遺跡や赤坂小丸山遺跡など古代製鉄につながる製鉄関連遺跡が相次いで発見されており、伯耆国の大製鉄地帯がこの大山北麓の丘陵地一帯に広がっていったことがうかがえる。

現在 この大山町飯戸とたたら製鉄をつなぐものは何もないが、

やはり、大山町飯戸は かつてたたら製鉄に関係した渡来工人たちの集落だった?? のかもしれない。



第234図 鳥取県の製鉄遺跡分布(古墳時代～中世)

2. 「大山町飯戸」をインターネット検索 たたらとのつながりがないか、調べる



インターネット検索で見つけた大山町飯戸の両墓制の埋め墓(野墓)

NHK BS 「日本縦断 こころ旅」の風景描写によれば、緑に包まれた田園の川岸に墓標のない野墓群が何ともいえぬ静かな穏やかな景色を作っている。

墓標もなくただ河原石だけが置かれた埋葬墓群がある。時と共に野墓となり人知れず事前に帰ってゆく。

この野墓群はこの集落の先祖たちの集団墓。そして、川の向こうには集落があり、そこには「お参りをする墓」。

この集落には ルーツを同じくする集団の絆の先祖と個人の墓があるという。

先祖が集う死者の場 そして脈々と続く先祖たち・集団の絆

こんな風景をみるとほっとするのも心の奥底に潜むそんな日本人の精神が呼びさまされるからかも。

かつて、東北の屋敷墓の話を聞いたことがありましたが、まだ今も両墓制が残り、時と共に誰もお参りせぬ野墓化した先祖たちの埋葬地がしっかり守られている。

何か 縄文のストーンサークルから脈々と続く精神世界が今も守られているようでうれしい。

しかも、この大山北山麓はたたら伝承の古代からのたたら故郷。

そして、この丘陵地を下った海岸の先端部には鉄など大陸や出雲などとの「鉄」の交流があった弥生の大集落 妻木晩田遺跡がある。随分古くから続く続く先進地に違いない。

このタタラ製鉄の在った家があった集落が「飯戸・たたら」となったのかどうかの詳細不明ですが、大山周辺にはタタラが多く存在するので、「飯戸」はタタラの集落の可能性はあつと思われる。

そんなことを思い浮かべながら インターネット検索で「大山町飯戸」と入れて調べてみました。
詳細はよくわかりませんが、

«「飯戸」名称の由来は『住古（すみふる）という所の滝の下付近にタタラ製鉄の家があつたとされ、
小字は「滝の下」で大字は「たうら」と言い『大山町誌』に記録がある。»との記事を見つけました。

(<http://ksusao.web.fc2.com/12/12a.htm>)

また、飯戸集落は大きな屋敷が連なる裕福な集落で、かつては県道が集落の中を通っていたという。そして、この集落の中でもひとときわ門構えのしっかりした石積みの庭のある立派な旧家 王身代家があり、その先祖は、糟谷九郎左衛門という人物で、名和長年の妹婿。その縁で、名和長年とともに 1333（元弘 3 / 正慶 2）年の後醍醐天皇の隠岐島脱出と京への移動を影武者として助け、その功績から王身代という姓を賜ったと伝わる旧家だという。

名和長年の稼業は海運業といわれ、その家紋は回漕船であり、この飯戸集落の王身代家も戦国時代には 物資輸送に進出していたのかもしれないが、タタラ製鉄との関連はよくわからなかった。

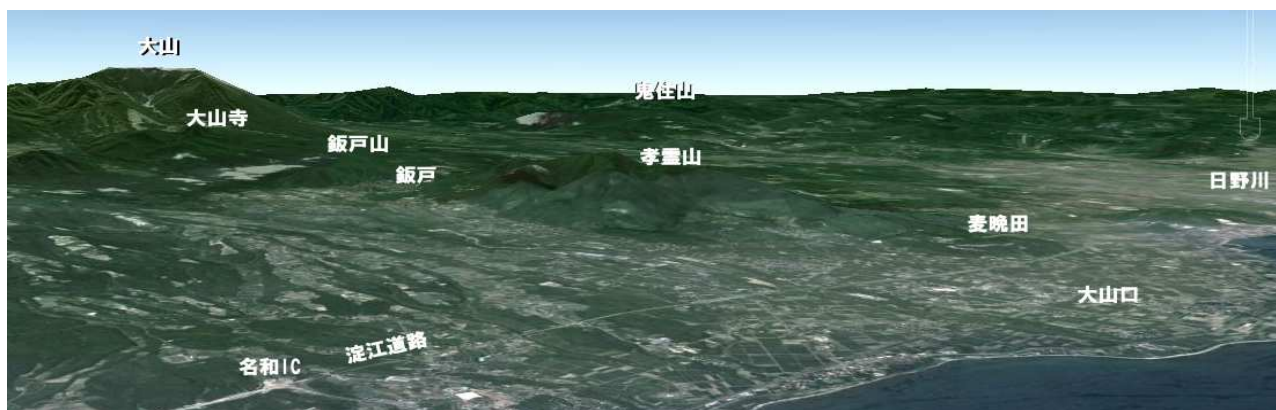


飯戸集落の旧家 王身代家の家紋

地図を引っ張り出したり、google earth を動かしたりして、大山町飯戸集落の位置を確認する。

何度か行ったことのある大山山麓 山陰海岸部から北へ 大山寺の門前 大山寺集落へ至る手前の山麓丘陵地の集落である。是非一度 行って、見たことのない両墓制の野墓を実際にながめてみたいと。

3. 大山山麓に広がる古代伯耆国の大製鉄地帯のたたら製鉄伝承 孝霊天皇の鬼伝説



ダイレクトに「飯戸」と入ただけでは、かつてこの地の周辺にたたらを生業とした家があつたというだけで時代もその大きさもその様子もよくわからなかった。

でも この大山山麓には古代のたたら製鉄と関係が深いといわれる孝霊天皇の鬼退治伝承が残る地で、集落の直ぐ傍には孝霊天皇ゆかりの孝霊山があり、かつ この孝霊山はもともと韓山・高麗山(からやま)などと呼ばれ、大山町発足前には高麗村が存在した地。古代 大陸・朝鮮半島から伯耆国にやってきた渡来工人在、移り住んだ地でもあり、鉄の先進地であつた。



北西の日野川河口から見た孝霊山と大山

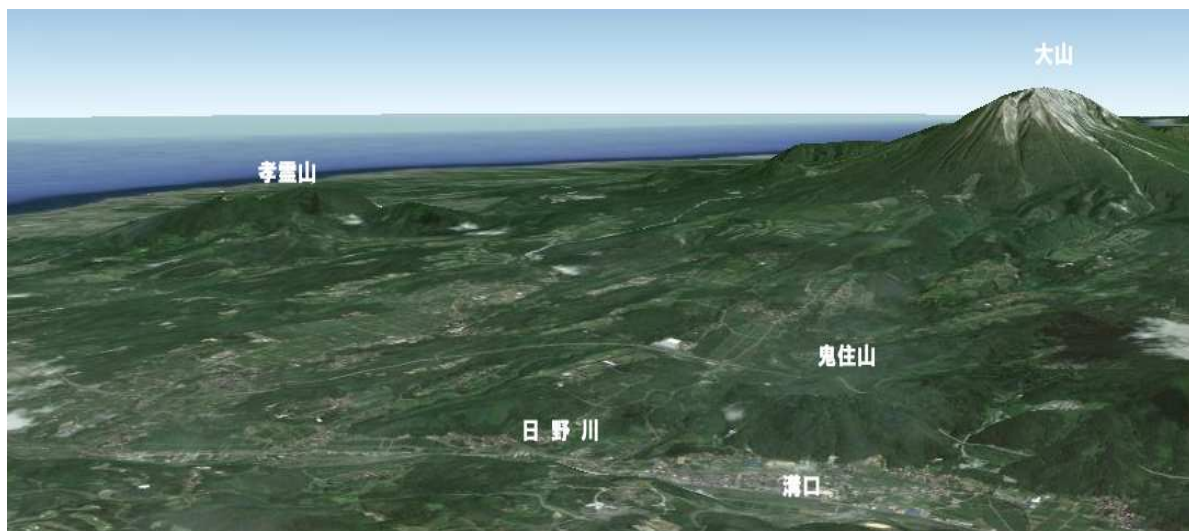
古代たたら製鉄伝承を伝える「孝霊天皇の鬼退治伝承」の中心孝霊山は「飯戸」集落の直ぐ傍らにそびえ立つ。「飯戸」は間違いなくそんな伯耆国の古代大製鉄地帯の中心にある集落である。

もう一度 かつて調べた「大山山麓に広がる伯耆の古代大製鉄地帯と鬼伝説」の記事を見直し、「飯戸」周辺地域の「鉄」とのかかわりを考えてみる。

また、大山の東側 日野川流域のたたらについては 数々のたたら伝承と共に具体的な製鉄遺跡も数多くある。
一方 この大山北麓の大山町地域のたたら製鉄・たたら関連遺跡について、ほとんど知らないので、併せて検討せねばと・・・。

◎ 孝霊天皇の鬼退治伝承

孝霊伝承と呼ばれている記紀が記す第七代孝霊天皇、もしくはその皇子を主人公とした一群の伝承群があり、この伯耆の国の鬼退治伝承として名高い。



◆ 孝霊山の伝承

孝霊山の名の由来は、孝霊天皇が行幸したからと云われているが、孝霊天皇が伯耆国の妻木の里（大山町妻木）に住んでいた朝妻という美女を后として愛し、妻木の里を訪れた時に、孝霊山の頂にふたりのために宮殿が建てられたことが書かれています。

また、この孝霊山は別に高麗山とも表され、所在する村の旧名は高麗村で、山麓の高杉神社は孝霊天皇を祀る。また、この孝霊山には「韓山・高麗山」とも呼ばれ、孝霊天皇の鬼伝承とは別に次のような渡来伝承もある。

昔、韓の国から大山と背比べのため「韓山」を運んできたが、大山の高さに驚いて捨て置いて帰ったという。
なお所在する村の旧名は高麗村で、そこにある高杉神社は孝霊天皇を祀っており、山頂には古代祭祀の跡があると云われ、古い歴史と朝鮮半島の高麗(高句麗)との何らかの関係を想像させる。

◆ 鬼住山の鬼退治伝承

第七代孝霊天皇の世、鬼住山に悪い鬼兄弟眷属が住みついて近郷近在の女子供をさらったり、食料や宝物を奪って住民を苦しめていた。天皇は鬼退治をしようと決め、鶯王を総大将に、臣下の大連を副将に命じ、鬼住山の鬼退治に向かわせ、鶯王は鬼住山よりもさらに高い鬼の館を見下ろす南の笹苞山に陣を敷き、人々が献上した笹苞の団子を山麓の赤坂の地に三つ並べ、大牛蟹の弟の乙牛蟹（おとうしがに）をおびき出し、大矢口命が矢を射ると、見事に命中し、乙牛蟹は死んでしまった。しかし、鶯王はこの戦いで戦死してしまい、また、一方、兄の大牛蟹（おおうしがに）は手下を連ねて、反抗してなかなか降伏しなかった。

ある夜、孝霊天皇の枕元で「笹の葉刈りにて、山の如くせよ。風吹きて鬼降らむ。」とのお告げがあった。

笹の葉を刈って山のように積み上げて待っていると、三日目の朝、強い南風が吹きつけ、

あれよあれよと言う間に、笹の葉はひとりでに鬼の住処へと飛んでいった。

うず高く積もった笹が突然燃え出し、鬼は笹の葉が身にまとわりついて成す術もなく、逃げ去った。

逃げた鬼は蟹の様にはいつくばって、「我れ、降参す、これよりは手下となりて、北の守り賜わん」と

願ったので、天皇は、「よし、汝が力もて、北を守れ」とお許しになった。

鶯王が戦死した場所に楽楽福祉社を建て、鬼たちが住んでいた山を鬼住山、鶯王が布陣して笹苞団子を食した山を笹苞山、日野川にかかる橋を鬼守橋と呼び、鬼退治の伝説を伝えている。

また、孝霊天皇が自ら軍を率いてこの山の鬼を退治し、さらに奥の鬼林山の鬼退治に向かったとも伝えられる。

この時、孝霊天皇が居を構えていた行宮が「楽楽福(ささふく)」で、笹で葺いた家という意味で、

鬼林山の麓にあったとの伝承もある。

4. **《再録》【和鉄の道】** 2000-5. 伯耆の国 日本誕生に役割を演じた古代山陰の Iron Road 2000. 4. 11.

鉄の伝来をもたらした山陰 鉄の王国の出現

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/jstlaa05.pdf>

以前 鉄の伝来をもたらした山陰の鉄の王国の記事で山陰 出雲・伯耆の国が鉄器時代に入ってゆく時代を記録すると共に、大山山麓 孝靈天皇の鬼退治伝承を溝口の伝承を中心に再録しています。

重複しますが、その記事を少し修正しつつ再整理と一緒に再録しました。

A. 弥生時代の末『鉄の伝来をもたらした古代 山陰 鉄の王国の出現』

四隅突出墳丘墓の出雲鉄の王国 & 大量の鉄器を保有する妻木晩田遺跡と伯耆鉄の王国の出現



参 考 鉄器登場 朝日新聞 夕刊

村の古い屋敷が実子で保存が出来た。定住時代の大阪城跡等真鍮、鳥取大森山、龍江開闢の安永神社正倉院は近く、養生の重要施設として国の史蹟に指定される運びだ。将来の詳しう調査も無難に願ふ。この土佐藩などをも取り入れ検討し作業も九月下旬に始まる。

二の地に花開く。近世社会は、明治半島と海外から風習思想の波の這入りを大膽に手に入れることが出来る迄と交差する力を持っていた。愛媛大学の村上格道助教授は、戦前の新聞を通じてその変遷をとらえつゝある。

日本郵政を以下す。郵便大臣田中清成郎では一九一二年から去任まで、約四十六年の丘陵などに分ちする邊境が荒蕪調査された。その結果、八十四種以上の動植物の記録をはじめヒトヤのさるな特長あるもの、馬場出地増産三十四萬、徳島県、愛媛の事情などもあつた。全国内にてとも同様の趨勢である。

佐田路から出たした統治は計五十七町。本の納を取り付けの部分を確認し十町。本の納を取り付けの部分を確認し十町。本を修む力の知能が、金、小刀、工場のやりがちなものだ。そればかりで、北部九州や地方であつたものが大半を占める。直轄には、戦前前後のものをめぐる時残っていた。しかし、日本郵政を購へてきた高度な技術の裏面があつたよつた。といふ。

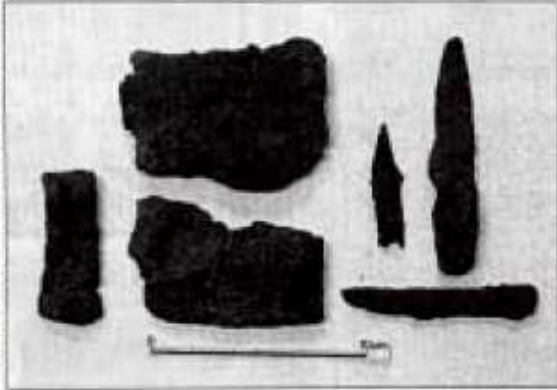


日本海沿岸に続く「道」

妻不妊で結婚を断り、ついに「南内」に訪れた。會員、半本関町で束とていた。越前山、越前山ならぬ、一言候以上の生年住居等、ともに年や歳、五十点近くの職務が発表されている。このほか、東方約四十、の東郷町・阿内道徳からは生年等は、(七十一)といま調査中である。東郷町東郷の青谷町・青谷上等地蔵からには、すでに同様に上記のほかに、生年等が出ている。

青谷上等地の職務は、三十二才の眞澤やヤリガンサ、タガネなど、關道、關道西村による職務が提示されている。粘土質の土壌に保まれた状態、肥料をほとんど必要とする、養殖や動物飼育の古い川尻で知られる。西村に加え、青谷から重現出ている。

このように見ると、鳥取県の衛生機構からは職務が一統としていた状況だが、鳥取の西、鳥取県でも必来市・柳井郡から、その職務とともに、この職務が出た。それとは、西村が相成っている。東郷町



優れた文章力や交渉力を真付けるといふ妻木隆出
遺跡出土の貝類類ニ関連大・村上研究部で

内では、コバルトブルーの旗をかながた、又團體とともに全国各地の二十四本の枝組で有名な三ツ田渡町・大島郡西郷海岸をはじめ、豊後府・豊前直隸郡・峰山町・關市、津中津佐間直隸郡などにおきかたじけなく、天皇の威勅、聖の詔などを、後進市場を中心に傳へてゐる。

さらに細やマリガンナなる四十歳が出士してゐる。其は雄雄雄雄市の校長の坊僧様をはじめ、那珂市の林・藤原直隸郡・河川縣那珂市の吉崎・次郎直隸郡、軍山鎮魚津市・佐伯直隸郡、新堀直隸郡・高山直隸郡など、今の終末の尊嚴の象徴は、牧師に、と云はない。「通稱と雖も正統の日本版、昔年の終末の尊嚴は、正統には、ともなく、全國に「といわれるはずだ。多くの銅牌、銅像などに刻み込まれた地方の青銅、陶器の発掘に、確信が得られた。

これら終末の尊嚴は、少なくとも数萬年間は朝鮮半島や中国でつくられたもので、かなりの割合は「輸入品」とされている。終末的なものを手に入れるには、その一見取りがたい。東本陣市からの交換品はまだ分かっていない。

しかし「たとえは出雲市軍山、新堀の玉製物、ヒスイ製物、丹波半島の水晶製品などのように、大體で流通された土製品が想定できる。もちろん、軍事力や政治力のほか増えた施設技術も持っているのだ。」と村上さんは語る。

日本海軍に沿って動く「鉄の道」。しかりとした「日本版文化」の仕組みが、海軍の中心にある。



1. 出雲青銅器文化の終焉と鉄の王国の出現



出土した銅剣 365 本 16 本の銅矛と 6 個の銅鐸



365 本の銅剣 16 本の銅矛 6 個の銅鐸が各々まとめて埋められていた出雲荒神谷遺跡。弥生後期一世紀ごろ、出雲には銅剣・銅鐸に代表される青銅文化圏が花開く巨大な山陰・出雲王国があった。そして、出雲荒神谷で、大量にまとめてうずめられた銅剣が発見されたのを最後に銅剣をもった青銅器の文化権が出雲から忽然として消えた。

その後、この地方には韓国に多くの例がある突出角を有する大きな方墳が出現する。

またこの四隅突出方墳墓には多くの鉄製品が副葬されている。

この文化の交代が起こる同時代の遺跡からは 大量の石のつぶて・鏃や石剣などの武器が発見されており、この地域で弥生後期一世紀頃 大きな戦いがあったと考えられる。

これら 出雲の青銅器文化や鉄の伝来を告げる四隅突出方墳墓に代表される山陰・出雲王国の形成には日本海を大陸から渡ってきた渡来人が深く関わっていたことは疑う余地がない。

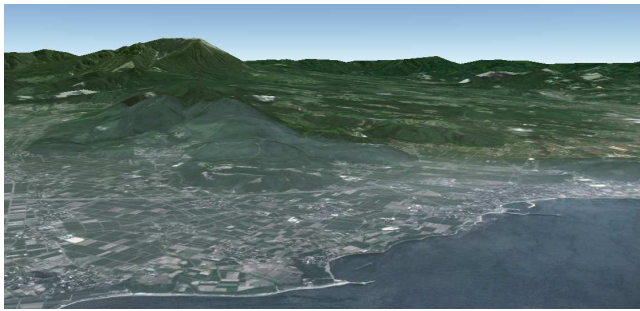
出雲神話に見られる『やまたの大蛇』伝説もこれら渡来人を含めた新住民と先住民の争いの構図が読み取れる。

特に一世紀後半頃から 3 世紀にかけて、強力な鉄製の武器・農耕具を持った渡来人が大陸・朝鮮半島から日本海沿岸の各地に次々に現れ、先住の民と融合しながら、山陰から北陸地方(当時越の国)にかけての日本海沿岸に鉄と稲作など農耕を持つ強力な王国を作った。

2. 奥出雲 八岐大蛇伝説と船通山 出雲 鉄の王国の出現 出雲仲仙寺古墳 & 四隅突出墳丘墓



3. 伯耆の国 鉄の王国 妻木晩田遺跡と淀江・溝口



妻木晩田遺跡出土鉄器製品



伯耆の国 優美な姿をみせる大山を背景に島根半島・弓ヶ浜を望む日本海沿岸淀江の地にも王国が出現した。

日本海を望む小高い丘に大陸との密接な関係を示す多数の四隅突出墳墓群ならびに多数の鉄製品が発見される妻木晩田遺跡とそれに続く古墳遺跡群である。

時代がくだり日本が誕生した白鳳時代には淀江廃寺遺跡が発見されている。



B. 耆の国 古代 鉄の集散地 妻木晩田遺跡 鳥取県淀江・大山町



妻木晩田遺跡は鳥取県大山町と淀江町にまたがる丘陵にある弥生時代後期(いまから2000年～1700年ほど)を中心とする大集落遺跡群です。

16ヘクタールの調査区で、800軒をこえる建物からなる大規模な村と、山陰地方独特の四隅突出墓 21基もみつけられました。

この地域は、大山の北なだらかな斜面の先端部、日本海に面する淀江町の東の丘陵地帯にあり前面には古代に淀江の潟湖があった淀江平野、さらにその向こうには広大な日本海が広がる大陸との交通の盛んであったところで、周囲の山には古墳が多く築かれ、またその東部には壁画の断片が出土した淀江廃寺・真名井の泉と呼ばれる白鳳時代から絶えることのない大山の湧水がある白鳳の里があり、古代から開けた王城の地の一つです。



四隅突出墳丘墓



遺跡から弓ヶ浜



遺跡から日本海

妻木晩田遺跡は洞ノ原遺跡、妻木山遺跡、妻木新山遺跡、仙谷墳墓群、松尾頭遺跡、松尾城遺跡、小真石清水遺跡という7つの遺跡の総称で、遺跡の範囲は調査された部分だけで約16ヘクタール、吉野ヶ里遺跡のほぼ4倍の広大な遺跡です。

それぞれの遺跡は住居が密集する地域、倉庫の密集する地域、広場、祭殿や有力者の館のある特別な地域があります。判明しているだけで、竪穴住居358軒、掘立柱建物355棟があり、また四隅突出墳20基も見つかっています。

これらの遺跡は丘陵一帯に分布し、それらがひとつずつ別個の役割を持っていたと見られ、それがひとつの王国ともいえるべき集合体を形成している点で、従来の弥生遺跡観の見直しを迫る重要な遺跡です。いままで発掘された弥生の集落は、吉野ヶ里遺跡など従来の弥生遺跡では、環壕の外側つまり、集落のそとに重要な倉庫群が発見され、不思議に思われていましたが、この妻木晩田遺跡のあり方から見て、弥生の集落はもっともっと広大に広がっていた可能性が出てきました。

吉野ヶ里遺跡をはじめ池上曾根遺跡にしても、今想像されているより広大な規模の集落であった可能性があります。

妻木晩田遺跡は、弥生時代における日本海沿岸部の様相を知りうる遺跡であると同時に、わが国における弥生の集落観の見直しという問題を提起した重要な遺跡です。

またこの遺跡は今日まで一切破壊を免れてきて、約二千年前の弥生の原風景をすべて見ることのできる希有の遺跡でもあります。

妻木晩田遺跡 インターネット ホームページより

この遺跡の居住域からは、200点を超える鉄器が工具・農機具を中心に発掘され、日本海側では群を抜く多さです。

また 鋳造品も含まれ、直接・間接的に大陸から持ち込まれたものも多いと想像されており、この地域が鉄の集散地として 大陸や日本各地と強い交渉力を持つ一大拠点であったことがうかがえます。

「鉄と四隅突出墳丘墓」に代表される大陸からの渡来人と既に日本にいた人達が出会い、融合して王国を築いて行った「鉄伝来の道 Iron Road」が見て取れる重要な遺跡でもあります。



古代山陰の製鉄遺跡群



妻木晩田遺跡出土鉄器製品

(「発掘された日本列島'99」より 千葉県松戸博物館 2000.1.21.)

私がはじめて妻木晩田遺跡のある丘陵に登ったのは 2000 年 1 月の冬の午後。あたり一面銀世界。妻木晩田遺跡も遠望する淀江平野も白銀の中にすべて埋もれていました。周囲の森の中に囲まれて細い白い道で点々とつながる真っ白な丘と雪から頭を出している切株とが妻木晩田遺跡であることを示していました。

丘から丘へ本当に広大な村があった事が実感されます。環濠や一つの丘の上に独立してある小さな村との弥生集落からはほど遠い広大な集落群である。高い丘の上に立つと眼下の雪の平原の向こうに島根半島の山々と真っ青な日本海が広がり、大陸へとつながる道が見て取れました。季節は違いますが、丁度青森「山内丸山遺跡」もこんな風でした。



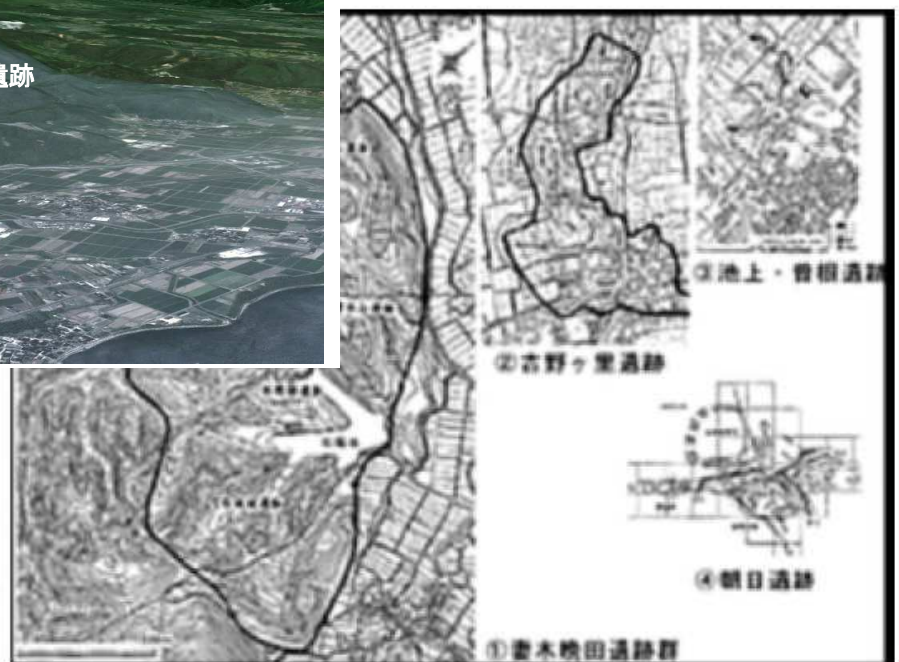
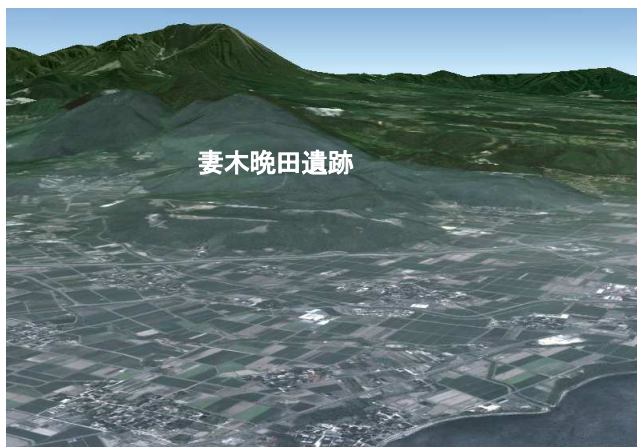
森に囲まれ、大山の姿は見えませんが、大山に向かって南へこの丘を抜けて行くと大山の山裾の谷間には点々と続く古代伯耆の国の大製鉄地帯「伯耆溝口」。

古代鉄の渡来人もこの森の中を抜け、大山の山麓へ散っていったに違いない。また 大山山麓の各地で精錬された鉄がこの地に運び込まれ、日本各地に運ばれて行ったであろう。

はるか西の大陸・幾多の弥生人が日本海を向いて整然と眠る土井が浜 ・出雲・奥出雲の国東をみると丹後・越の国 そして この弥生よりももっと古い縄文の王国「津軽 山内丸山遺跡」南には 大山の山合を縫って 吉備の国 そして畿内へと……。

根拠はないが 鉄と共に古代人が歩いたと想像すると楽しくなる。

真っ青の空の下 誰もいない白銀の遺跡で一人足跡をつけ、楽しんで帰りました。



妻木晩田遺跡と 吉野ヶ里・池上遺跡の比較

◆ 妻木晩田遺跡の丘の下に広がる「淀江平野」と「白鳳の里 淀江」

古代 朝鮮半島・大陸から、数多くの渡来人が数多く渡ってきて、新しい技術・文化を日本伝え、日本が大きく変わってゆく先駆けとなった。大陸と大和を結ぶ交流の出入り口が伯耆の国淀江。そして、数多くの渡来人が住んだ淀江平野 鉄文化をもたらし、製鉄技術を伝えた。



鬼伝説はこの製鉄技術と関わった渡来人と深く関わっている事が日本各地の多くの事例で良く知られている。この溝口の『鬼伝説』も同様に古代製鉄 製鉄技術をもたらし渡来人と深く関わっている。古代の伯耆国の大製鉄地帯「日野川・溝口」につながる淀江の地は古代日本の大陸への前線基地。そこには大陸との密接な交流から生まれた縄文・弥生の妻木晩田遺跡・白鳳の淀江廃寺と続く独自王国勢力と大和朝廷の勢力との何らかの交渉があったに違いなく、この『鬼伝説』がそれを伝えているのかも知れない。

淀江の湖を通してやって来た渡来人が日野川の砂鉄と出会い自分達の持っている製鉄技法を発展させて行った。鉄と炭を求めて 大山の山中に入っていくに違いない。

楽楽福(ささふく)の「ささ」は「砂鉄」を「福」は「吹く」と関係があるといわれ、「たたら」製鉄との関係つまり、鉄の技術を持ってやって来た渡来人と先に定住した農耕の民との争いの様相が色濃く見えます。しかし、稲作も鉄の鋤なくしては発展しなかったであろう。このような産鉄の民が日本の到る所で「鬼」としてえがかれている。

時の権力者は鉄を得て、さらに巨大になって行ったに違いないのにそれを支えた産鉄の民が「鬼」とはいかにも理不尽に思う。

もっとも、やはり古代津軽の製鉄地帯であった岩木山麓の村には、鬼が村の開墾の水路を一夜にして作ってくれたとして 節分には「福は内鬼は内」と祝う村もある。

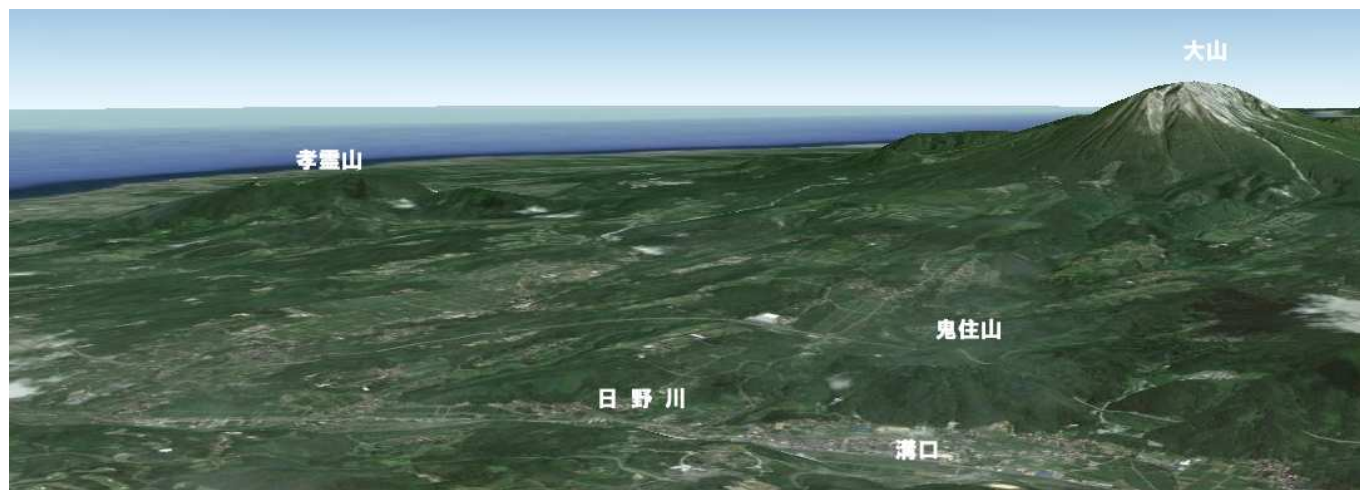
また 伝説の大男 映画「もののけ姫」に登場した「ダイダラボッチ」も「たたら製鉄」と関連づける説もあり、この時には「ダイダラボッチ」は村人を助けるユーモラスな大男と描かれることが多い。

● 淀江廃寺と眞名井の泉



C. 鬼伝説と伯耆の国の製鉄地帯 - 日本鬼伝説最古の鬼伝説から -2000. 3. 10.

大山の西麓 日野川流域 溝口に伝わるたたら製鉄の伝承 孝霊天皇の鬼退治伝承



孝霊天皇 鬼伝説 伯耆 溝口 -楽楽福神社 古文書より-

伯耆の国日野郡溝口村の鬼住山に悪い鬼 が沢山住み着いていました。

この鬼達は近くの村々に出ては人をさらったり、金や宝物・食べ物を奪って人々を苦しめていました。これを聞かれた孝霊天皇は、みずから軍勢を率 いて鬼住山の南のこれより少し高い笹苞山(さすとさん)に登り、鬼住山の鬼達をことごとく退治され ました。

天皇が山に登り、布陣された時、人々は笹巻の団子を献上し、士気が大いに上がったといひます。

それで、この山を笹苞山(さすとさん)と呼ぶようになりました。

鬼をおびき出す為、山麓の赤坂というところに団子を三つ並べたところ、弟の鬼『乙牛蟹』が出てきて討たれました。

兄の『大牛蟹』は大いに怒り、手下を束ね一層暴れ、容易に退治することが出来ません。

ある晩 眠っている天皇に「笹の葉を刈って山のように積上げなさい。そうすると風が吹いてそれらを舞い上げ、鬼を遅い退治出来るでしょう」とのお告げがあった。これを聞いた天皇がその通りにすると三日目の朝、猛烈な南風が吹き、積上げた笹を「あれよあれよ」と鬼の住処の方へ、巻き上げて行きました。天皇はここぞとばかり、全軍を叱咤して、舞いあがった笹の後を追ひ、鬼退治に向かいました。

笹の葉に巻きつかれ、また枯葉が燃え、鬼達はなすすべも無く、麓に逃げて降参 しました。

人々は大変喜んで 麓宮原の地に笹で社殿を吹き天皇を祭りました。

これが楽楽福(ささふく)神社のいわれです。

大山山麓のは古代伯耆の国の一大製鉄地帯。

中国山地の山奥から流れ出て大山の山麓を縫い日本海へ流れ出る日野川。この日野川が大山の山裾から平野部に出る山合が伯耆溝口。この日野川沿いの山中は砂鉄の宝庫。

この溝口の地では古代から、この川や山中の砂鉄と山中の樹木を焼いて作った木炭を使って、製鉄が広く行われてきた。

この山間の溝口を抜けるとそこは大山をバックに日本海まで、淀江・妻木の平野・丘陵が大きく広がっている。この淀江の地は古代より、大陸から多くの渡来人がやって来て栄えた王城の地。

大山の山裾の丘陵地帯の前に広がるこの平野部は 古代広々とした湖が日本海に通じていたという。この大山山麓の丘陵地帯に古代からの数々の遺跡・古墳が眠っている。かつては大陸から数多くの人達が淀江の湖を通してここに新天地を求めてやって来た。

稲作・鉄の技術も大陸の多くの文化とともにこれらの人たちと一緒にやって来た。

妻木晩田弥生遺跡そしてその後の白鳳時代に続く数々の古墳群・淀江廃寺遺跡みんなこの丘陵の上にある。白鳳の郷と呼ばれる古墳群のひろがる丘陵の上に立ったのは 梅雨の6月の朝。

眼前には緑一色の田畑がひろがり、その向こうには真っ青の日本海・島根半島の山々が霧雨に煙っていた。

丘の下の上には きれいな湧き水が音を立てて流れ、水車がまわる水の里。

王城の地は今本当に静かな日本の原風景。

鬼伝説はこの製鉄技術と関わった渡来人と深く関わっている事が日本各地の多くの事例で良く知られている。この溝口の『鬼伝説』も同様に古代製鉄 製鉄技術をもたらした渡来人と深く関わっている。古代の伯耆国の大製鉄地帯「日野川・溝口」につながる淀江の地は古代日本の大陸への前線基地。

そこには大陸との密接な交流から生まれた縄文・弥生の妻木晩田遺跡・白鳳の淀江廃寺と続く独自王国勢力と大和朝廷の勢力との何らかの交渉があったに違いなく、この『鬼伝説』がそれを伝えているのかも知れない。

淀江の湖を通してやって来た渡来人が日野川の砂鉄と出会い自分達の持っている製鉄技法を発展させて行った。鉄と炭を求めて 大山の山中に入ってしまったに違いない。

楽楽福(ささふく)の「ささ」は「砂鉄」を「福」は「吹く」と関係があるといわれ、「たたら」製鉄との関係つまり、鉄の技術を持ってやって来た渡来人と先に定住した農耕の民との争いの様相が色濃く見えます。しかし、稲作のも鉄の鍬なくしては発展しなかったであろう。このような産鉄の民が日本の到る所で「鬼」としてえがかれている。

時の権力者は鉄を得て、さらに巨大になって行ったに違いないのにそれを支えた産鉄の民が「鬼」とはいかにも理不尽に思う。

もっとも、やはり古代津軽の製鉄地帯であった岩木山山麓の村には、鬼が村の開墾の水路を一夜にして作ってくれたとして 節分には「福は内鬼は内」と祝う村もある。

また 伝説の大男 映画「もののけ姫」に登場した「ダイダラボッチ」も「たたら製鉄」と関連づける説もあり、この時には「ダイダラボッチ」は村人を助けるユーモラスな大男と描かれることが多い。

また、この溝口の鬼伝説には異説があって、この鬼退治を姫を母とする孝霊天皇の皇子『鸞王』であるとも言われている。この妻木の地が大陸からやって来た鉄の渡来人と深く関係づけられる妻木晩田弥生集落遺跡の地であることを考え合わせると、この鬼退治伝説の主人公 孝霊天皇やその皇子『鸞王』が大陸からの渡来系の人達であるとの説も一層真実味を帯びてくる。

妻木晩田遺跡や古代の古墳が広がる白鳳の郷の丘に立って、日野川沿いに広がる淀江平野から日本海を眺めると日本古代の想像がどこまでも広がって行く。

鉄の産出地帯「溝口」の古代鬼伝説が、古代この地で栄えた「伯耆 鉄の王国」を支え、日本誕生に大きな影響を与えた事を伝えている。

2000-5. 伯耆の国 日本誕生に役割を演じた古代山陰の Iron Road

鉄の伝来をもたらした山陰 鉄の王国の出現 【完】

5. 大山北山麓の製鉄遺跡について

大山北山麓に「飯戸・たたらど」集落。

「飯」の漢字を「たたら」と読み、また この周辺は古代 朝鮮半島からやってきた渡来人達が住みついた場所であり、孝靈天皇にまつわる製鉄伝承の地であることもわかってきた。

古くから「たたら製鉄」と関係の深い地であると推察されるが、ちょっと疑問点もあり、気分的にはすっきりしない。というのは、私の勉強不足も大いにあるのですが、大山並びに米子・弓ヶ浜の海岸部や周辺の中国山地の製鉄遺跡などそして 鉄を大量に集積していた弥生後期の大集落 麦晩田遺跡や青谷上寺地遺跡など「鉄」をキーワードに鳥取県から奥出雲にかけて訪れたことがあるのに、この「飯戸」集落のあるこの大山北麓 淀江や大山町で、たたら遺跡について全く知らないことが気にかかっていました。

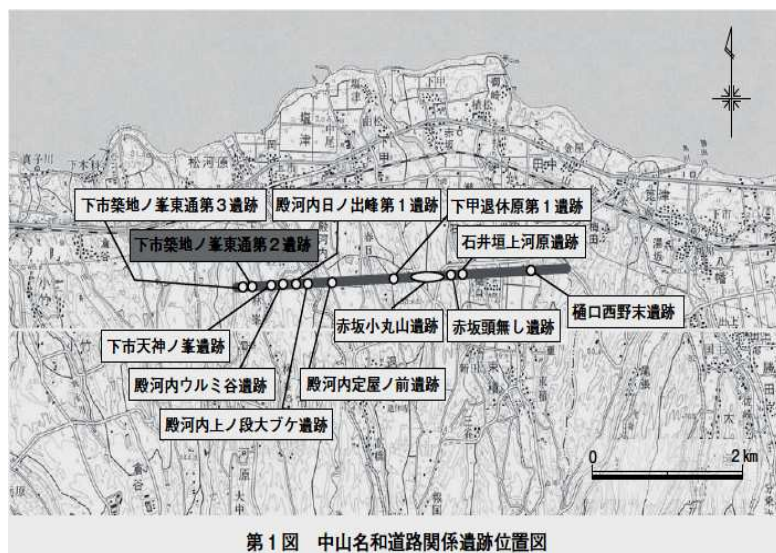
製鉄遺跡やその関連遺跡などは日野川が流れ下る大山西山麓から奥出雲にかけての山中に集中していると思っていました。

今回 「飯戸」集落とたたら製鉄との関係を調べていて、確かにこの周辺での古代につながるたたら製鉄遺跡がすくないものの、鳥取から島根の海岸部を結ぶ山陰自動車道路建設に伴う大山北山麓を通る淀江・名和・中山道路の建設で、数多くの製鉄遺跡が出土していることを知りました。

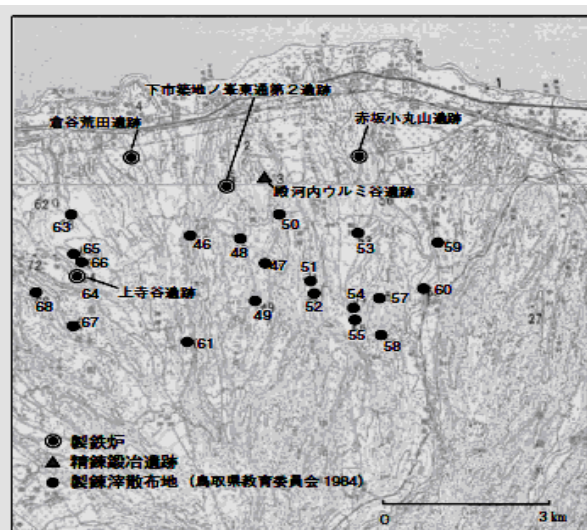
《インターネットで調べた大山北山麓の丘陵地 大山町周辺のたたら関連遺跡分布》



第234図 鳥取県の製鉄遺跡分布(古墳時代～中世)



第1図 中山名和道路関係遺跡位置図



第236図 遺跡周辺の製鉄遺跡分布

インターネットで調べた大山北山麓の丘陵地 大山町周辺のたたら関連遺跡分布

その中から、知った製鉄関連遺跡は次の通り。

● 下市築地ノ峯東通第2遺跡

9世紀から10世紀製鉄炉と須恵器窯とがセットで確認された

● 赤坂小丸山遺跡

粘土採掘場と平安時代末期の箱型製鉄炉が隣接して見つかった
この遺跡ではチタン含有量の高い砂鉄を使って製鉄を行っており、
奥出雲の製鉄の様相とは少し異なっているという。

● 名和乙ヶ谷遺跡 平安時代初期の椀型鍛冶滓出土の鍛冶遺跡

● 名和 上寺谷遺跡 古代の製鉄炉 詳細不明



粘土採掘場と平安時代末期の箱型製鉄炉が隣接して見つかった平安末期の赤坂小丸山遺跡

2012年11月04日

製鉄炉跡と粘土採掘坑 赤坂小丸山遺跡で確認 | 鳥取県 NetNihonkai-日本海新聞

赤坂小丸山遺跡で、平安時代末期の製鉄炉跡と粘土の採掘坑跡が隣接して見つかり、発掘調査に当たっていた鳥取県埋蔵文化財センターは2日、現場を報道機関に公開した。この時代の両施設が隣り合って確認されたのは県内初といい、同センターは江戸時代に奥日野などで栄えたたたら製鉄のルーツを探る上で貴重な発見としている。

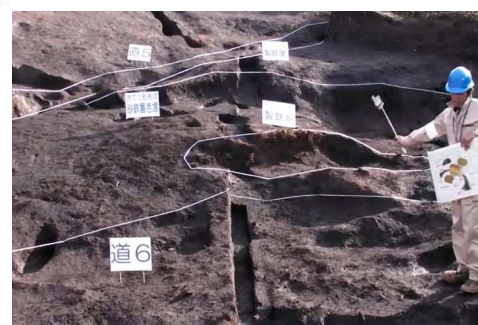
大山町赤坂の「赤坂小丸山遺跡」で、平安時代末期の製鉄炉跡と粘土の採掘坑跡が隣接して見つかり、発掘調査に当たっていた鳥取県埋蔵文化財センターは2日、現場を報道機関に公開した。この時代の両施設が隣り合って確認されたのは県内初といい、同センターは江戸時代に奥日野などで栄えたたたら製鉄のルーツを探る上で貴重な発見としている。



製鉄炉跡など「たたら」のルーツを探る上で貴重な発見があった遺跡＝2日、大山町赤坂

発掘調査は山陰道・中山名和道路の工事に伴うもの。平安時代以前の製鉄炉跡の確認は県内4例目。砂鉄置き場や鉄塊を小割りする作業場も発掘された。

製鉄炉は斜面を段状に整地した平地に作られた「箱形炉」とみられ、炉の底部分の「炉床」の一部と、防湿や保温のために穴を掘り炭を敷き詰めた地下構造を確認。鉄くずの捨て場や流出溝も見つかり、鉄滓など約2トンが出土した。



インターネットで調べた大山北麓の製鉄関連遺跡分布を眺めてみると、やっぱり、この「飯戸」集落のある大山北麓地域には数多くのたたら製鉄関連遺跡があることがわかり、古代のたたら伝承と同じく 古くはないが、古代に遡れる遺跡も出土している。

- ◎ 平安時代早くからこの山麓のあちこちから 鉄滓の出土が見られ、平安時代後期には製鉄炉も出土。延喜式に記された「9世紀に調として鉄鋌・鉄を出し、庸として鉄を中央に差し出した」との時代であり、鉄の国 伯耆国の大製鉄地帯の一翼をこの地がにっていたとかがえる。
- ◎ この大山北麓での製鉄炉の出土は 10世紀頃平安時代後期の製鉄炉が下市築地ノ峯東通第2遺跡や赤坂小丸山遺跡で見つかり、古代この大山北麓でもたたら製鉄が行われていたことがクリヤーになった。たたら製鉄が この地で どの時代まで遡れるか? については 名和乙ヶ谷遺跡から平安時代初期の椀型滓が出土していることや上記した大山北麓各地で見つかる鉄滓なども踏まえ、今後の調査を待たねばならない。

以上 「飯戸・たたら」集落とたたらの関係について、インターネット検索で調べましたが、この集落とたたら製鉄の関係並びに「飯」の字を「たたら」と呼ぶ理由を知る手がかりを得ることができませんでしたが、直ぐそばに古代製鉄伝承といわれる孝霊天皇伝説の中心孝霊山がそびえるこの地が 古代から大陸・半島と密接な関係がある地で、また 古代 伯耆の国の大製鉄地帯の真ただ中にあることがわかってきました。ひょんなことから 気まぐれで古代 鉄の王国 伯耆の国を調べることになりましたが、よく知らなかった大山北麓の古代製鉄について知ることができました。

「たたら」の漢字に「飯」を加えてもよいのでは・・・と思っています。

もうひとつ この孝霊天皇伝説のたたらの郷が長く守ってきた「両墓制」と野墓
周囲の緑の風景と相まって、なんとも言えず心地よい。



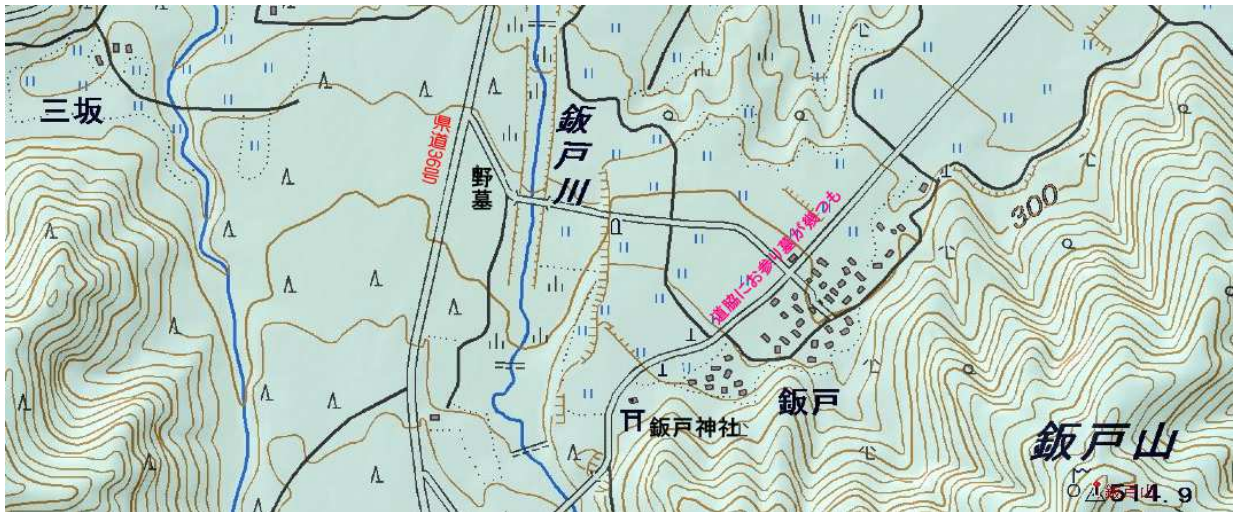
飯戸川の川岸にある飯戸集落 両墓制 野墓がみえる飯戸川岸 google earth ストリートビューより
その底には日本人の心のふるさとにも通じるとと思っています。

機会があれば 今度はゆっくりと海岸からこの「飯戸」集落とその野墓を訪ねてみたいと思っています。
この「飯戸」集落の野墓の風景に心打たれた人が私だけではなかったとインターネットで知りました。
ガチャガチャ ギスギスの現代社会の中に こんな空間があることがうれしい。

思いもかけず TV の放送から 伯耆の国のたたら 並びに 野墓のある川岸の風景など
大山山麓に行ったわけではありませんが、久しぶりにたたらの世界に浸ることができました。

また、「飯戸」「たたら」「孝霊山」などのインターネット検索で得たたたら関係資料・写真
また飯戸周辺の写真並びに google earth の画像等数多く使わせていただきました。
ありがとうございました。

◎ 参考1. google earth ストリートビューによる「飯戸集落」と野墓周辺の景色



飯戸川の川岸にある飯戸集落 両墓制 野墓



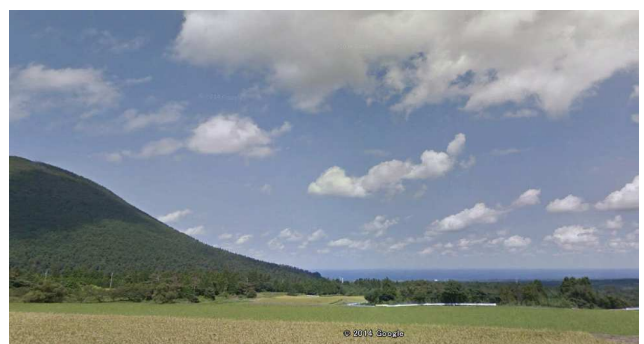
橋を渡って集落への道 正面に飯戸山



橋から眺める野墓 鍋山が顔をのぞかせている



集落への田園道 振り返ると左:鍋山 右:孝霊山



北側 田園が広がる向こうに日本海が見える



橋から東へ 飯戸山の山裾に広がる集落の中央への道筋
 集落に隣接するこの道の傍らには 飯戸集落の家の「参り墓」が
 幾つも見られ、この道脇に集団墓所も見えました
 集落のほぼ中央部付近へ入る十字路をまがって集落の中へ
 細い道の両側には飯戸集落の家が立ち並んでいます



飯戸山の山裾に広がる飯戸集落

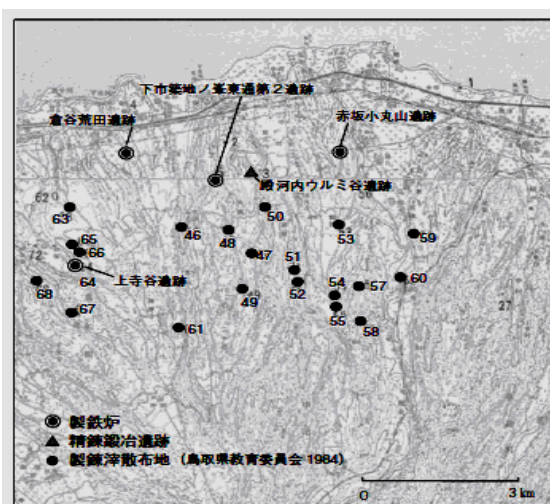
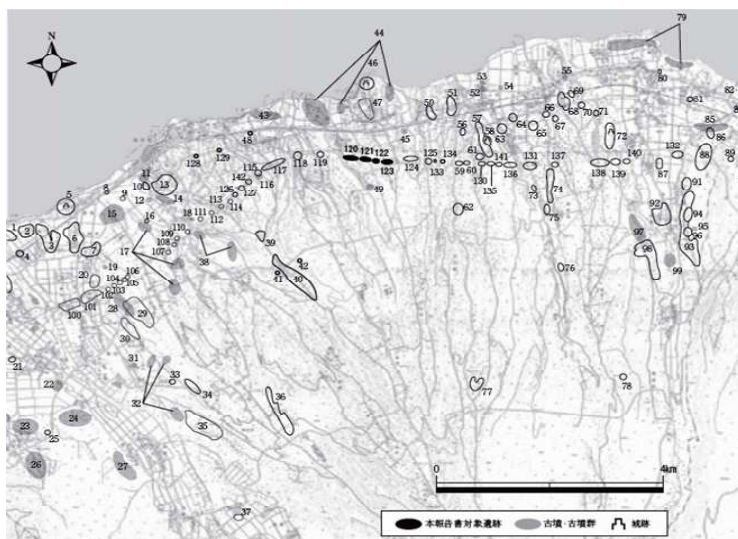
右端中央にお参りする墓の墓所が見えています



大山北山麓 大山町飯戸集落の家並み

参考 2. インターネットで調べた大山北山麓の丘陵地 大山町周辺のたたら関連遺跡分布

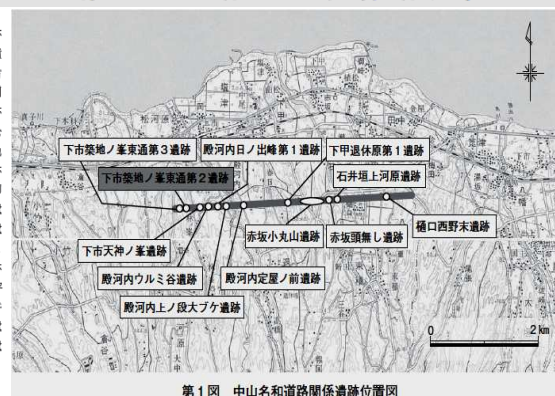
淀江道路建設工事関連の製鉄関連遺跡分布



第236図 遺跡周辺の製鉄遺跡分布

1. 大塚第3遺跡 2. 大塚岩田遺跡 3. 大塚塚原遺跡 4. 大塚原敷遺跡 5. 高長城跡 6. 古御堂遺跡 7. 文殊領屋敷遺跡 8. 荒田遺跡 9. 南川遺跡 10. 馬部遺跡 11. 名和公園裏古墳群 12. ハンギ原古墳 13. 長者原遺跡 14. 坪田古墳群 15. 宮長山村古墳群 16. 門前礎石群 17. 門前古墳群 18. 長綱時古墳群 19. 第3号墳 20. 茶畑山遺跡 21. 清原遺跡 22. 中高遺跡 23. 長田古墳群 24. 平古墳群 25. 徳楽方遺跡 26. 原山古墳群 27. 宮内古墳群 28. 茶畑古墳群 29. 茶畑第2遺跡 30. 東高田遺跡 31. 高田26号墳 32. 高田古墳群 33. 高田原廟寺 34. 高田第4遺跡 35. 高田第10遺跡 36. 上大山第1遺跡 37. 蔵同第1遺跡 38. 梶原古墳群 39. 角塚遺跡 40. 梶原遺跡 41. 梶原第2遺跡 42. 上寺谷たたら 43. 東坪古墳群 44. 豊成古墳群 45. 豊成28号墳 46. 長野城跡 47. 浜ノ坂遺跡 48. 鷹光寺遺跡 49. 倉谷横穴墓 50. 松河原第1遺跡 51. 松河原第2遺跡 52. 岩屋堂古墳(岡古墳) 53. 岡3号古墳 54. 高塚古墳 55. 曲松古墳群 56. 築地峯東通遺跡 57. 林之峯東通遺跡 58. 天中山遺跡 59. 下市築地ノ峯東通第3遺跡 60. 下市築地ノ峯東通第2遺跡 61. 要害ノ峯遺跡 62. 築地ノ峯第3遺跡 63. 細工塚遺跡 64. 向畑遺跡 65. 住吉第1遺跡 66. 住吉第2遺跡 67. 住吉第3遺跡 68. 小松谷遺跡 69. 林之峯遺跡 70. 下平坂地遺跡 71. 赤坂後口山遺跡 72. 石井城跡 73. 殿河内落合遺跡 74. 退休寺遺跡 75. 退休寺飛越り遺跡 76. 退休寺第1遺跡 77. 二本松遺跡 78. 羽田井遺跡 79. 岡崎古墳群 80. 岡崎第2遺跡 81. 田中川上遺跡 82. 龍津城跡 83. 龍津古墳群 84. 坂ノ上古墳群 85. 梅田(保田)古墳群 86. 梅田六ツ塚遺跡 87. 樋口第1遺跡(樋口遺跡) 88. 梅田堂峯遺跡 89. 梅田東前谷中遺跡 90. 龍津乳母ヶ谷第2遺跡 91. 八重第3遺跡 92. 樋口第2遺跡 93. 八重第4遺跡 94. 八重第1遺跡 95. 岩間平ノ古墳 96. 八重第2遺跡 97. 三谷古墳群 98. 三谷遺跡 99. 東横古墳群 100. 押平弘法堂遺跡 101. 茶畑大反田遺跡 102. 茶畑第1遺跡 103. 押平尾無遺跡 104. 古御堂保尾山遺跡 105. 古御堂金蔵ヶ平遺跡 106. 古御堂新林遺跡 107. 門前第2遺跡 108. 門前鎮守山城跡 109. 門前上原敷遺跡 110. 名和飛田遺跡 111. 名和コヶ谷遺跡 112. 名和衣笠谷遺跡 113. 名和コ谷遺跡 114. 名和中秋遺跡 115. 西坪岩屋谷遺跡 116. 西坪岩屋谷古墳 117. 東坪中林遺跡 118. 小竹下宮尾遺跡 119. 小竹上尾ノ尾遺跡 120. 倉谷西中田遺跡 121. 倉谷荒田遺跡 122. 豊成竹林遺跡 123. 豊成上神原遺跡 124. 豊成上金井谷峰遺跡 125. 松河原上奥田第2遺跡 126. 西坪上高尾原遺跡 127. 西坪下馬鞍ヶ峰遺跡 128. 名和下馬鞍ヶ峰遺跡 129. 西坪三軒屋遺跡 130. 下市天神ノ峯遺跡 131. 殿河内定屋ノ前遺跡 132. 樋口西野末遺跡 133. 松河原上奥田第3遺跡 134. 下市前築地遺跡 135. 殿河内ウルミ谷遺跡 136. 殿河内上ノ段大ブケ遺跡 137. 下甲退休原第1遺跡 138. 赤坂小丸山遺跡 139. 赤坂頭無し遺跡 140. 石井垣上河原遺跡 141. 殿河内日ノ出峰第1・第2遺跡 142. 西坪中秋遺跡

第5図 周辺遺跡分布図



第1図 中山名和道路関係遺跡位置図

参考資料

【和鉄の道・Iron Road】

1. 伯耆の国 日本誕生に役割を演じた古代山陰の Iron Road 2000. 4. 11.

鉄の伝来をもたらした山陰 鉄の王国の出現

<https://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/jstlaa05.pdf>

2. NHK BS 10月10日放送谷口邦子さんのこころの風景 大山町飯戸(たたらど)の野墓

http://www.nhk.or.jp/kokorotabi/route_2014autumn/20141010/index.html

3. 動画 赤坂小丸山遺跡 平安期・製鉄遺構 (鳥取県大山町)

<http://www.youtube.com/watch?v=akZuN86GNHE>

4. 伯耆「大山」は、【鬼】侵略地だった！(2)

<http://blog.livedoor.jp/nanatsumatu/archives/29531130.html>

5. pdf internet 検索入手資料

1. (第7章 特論2) 名和町における鉄生産
2. 鳥取県埋文報告書49 下市築地ノ峯東通第2遺跡
3. 鳥取県埋文 西坪中中畝遺跡調査報告書

ほか

5. 「飯戸」「たたら」「孝霊山」などのインターネット検索で得たたたら関係資料・写真および google earth 写真 & ストリートビュー